



笹井史恵 漆芸展

風様ふわり、

忽ちに雷様

東京展

2024年9月11日・水→30日・月
高島屋日本橋店 本館6階 美術画廊X

大阪展

2024年10月16日・水→28日・月
高島屋大阪店 6階 ギャラリーNEXT

京都展

2024年11月13日・水→18日・月
高島屋京都店 6階 美術画廊

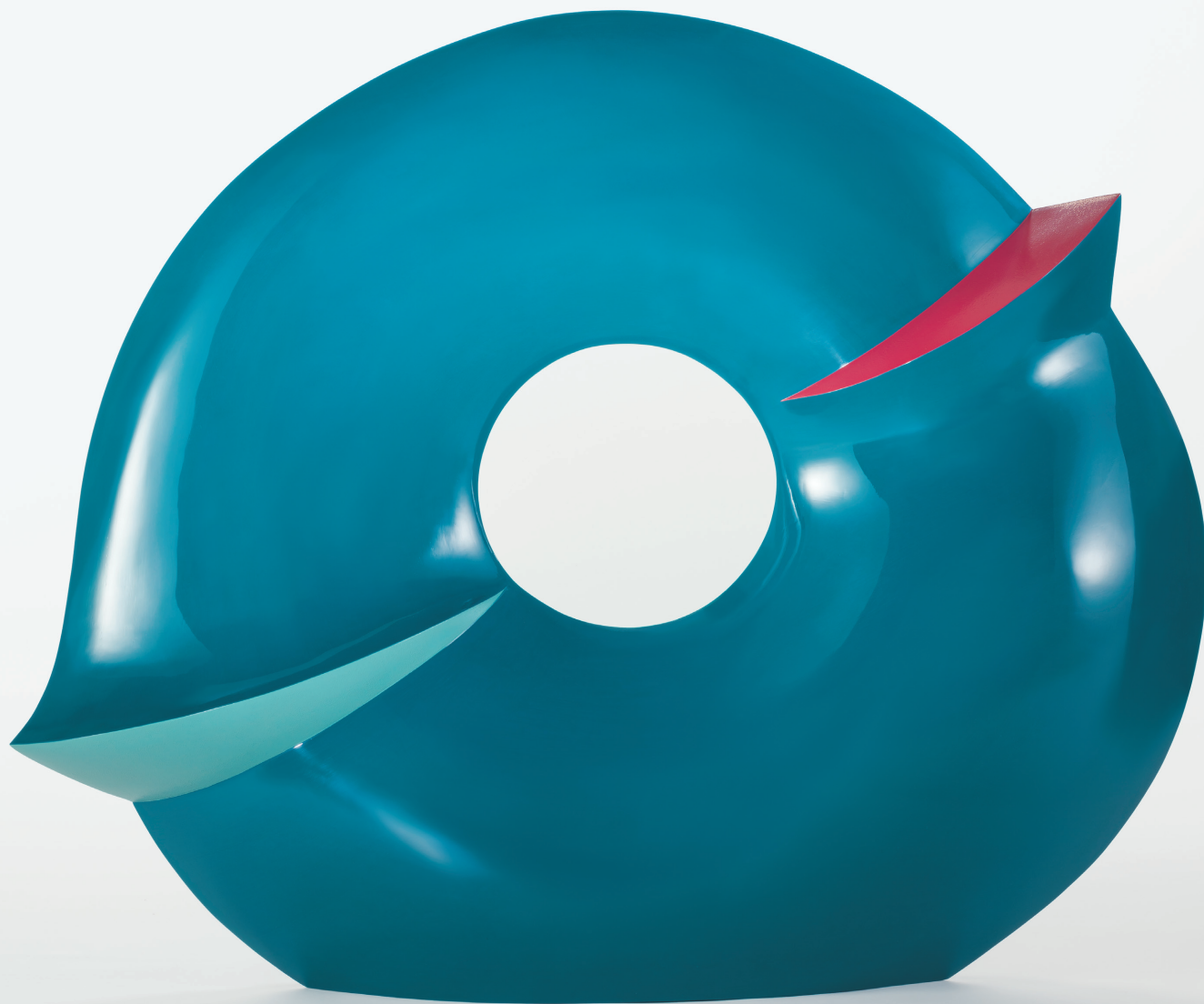
海の深さによって色が急変するブルーホールと、水面に生じた波紋をモチーフに生まれた形です。

色は平安時代の襲色目^{かさねいろめ}から着想しました。基調の青は縹^{はなだ}、海と対比して生じる色の重なりは薄縹^{うすはなだ}、蘇芳^{すおう}で彩りました。

海面に波が立ち、刻々と変化するさまを対角線上に突出させて表現しました。

円相には、海や空、大地などの自然だけではなく人間も含め、この世の全ては生々流転し、循環しているという思想を込めました。

円は始まりも終わりもなく、全てが繋がっています。さざめく波音とともに、万物の生きる喜びや自然への賛歌が、静かに聞こえてくるような造形を心がけました。



藍洞・水の紋 (らんどう・みずのもの)

2023

110 × 24 × 90cm

乾漆に色漆

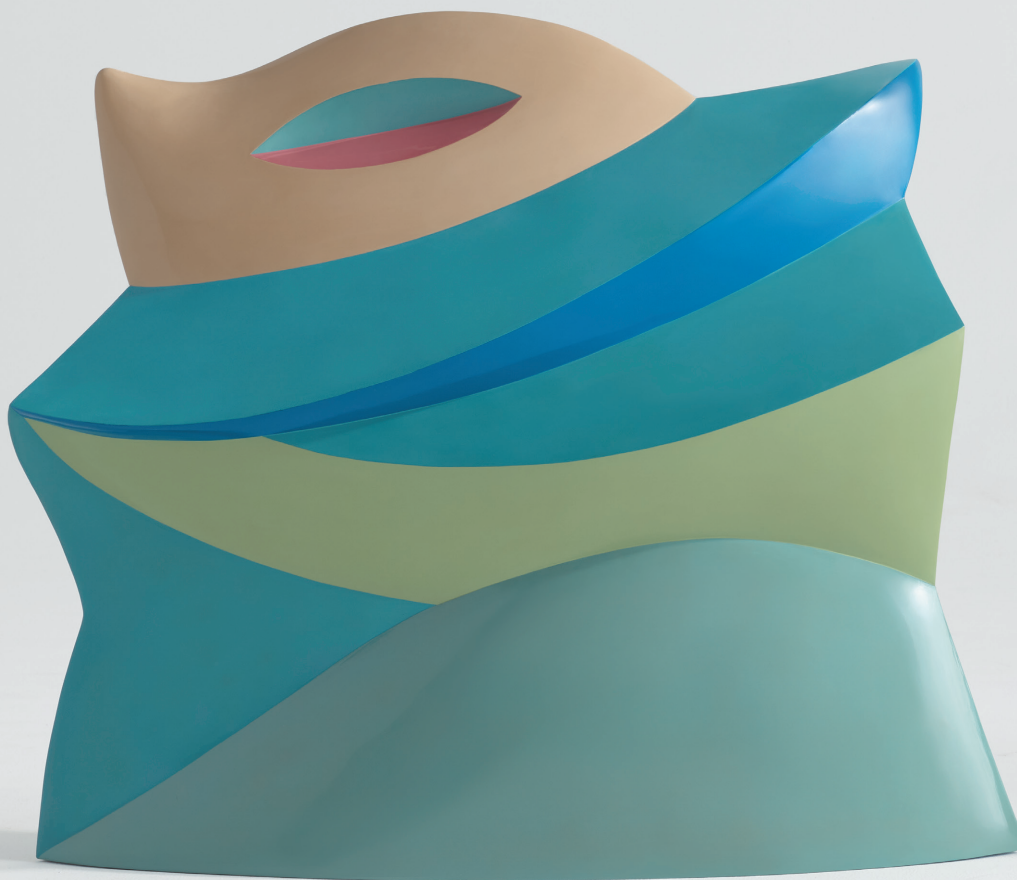
作品に、「ふわり」や「忽ちに」のオノマトペなどをつけると、作品の物語が始まります。「風様」ふわり、^{たちま}忽ちに「雷様」は、自然の神様達が顕現する登場シーンです。「藍洞」摩訶不思議、だと、波間に現れたブルーホールが舞台の推理劇に。「蓬莱の舟」はるぼると、だと、蓬莱山への冒険譚に。

また、色漆から作品キャラクターが印象づけられます。青色系だと冷静、クール、洗練など、赤色系だと情熱、アクティブ、生命などなど。物語の役柄やキーアイテムの設定が表現されます。

さらに、作品のいくつかには「差し色」をしました。全体色調と異なる差し色は、フォーカルポイントとして、作品の魅力を増します。差し色は、全体色調のキャラクターとは別のキャラクターも包含することになり、物語で、作品が活躍や活用するときの様々な変化を、幅広く表現できることになります。

作品を見ながら、物語の続きをめぐらしていただければ幸いです。

笹井史恵



風様雷様 (かぜさまかみなりさま)

2024

各82×23×70.5cm

乾漆に色漆



以前、富田溪仙の大正期の風神雷神図屏風をモチーフに、抱っこサイズの乾漆立体作品「風様雷様」を制作しました。

淡い色彩に散光する青の「差し色」を施し、天衣や風袋の布の特徴的な表現を取り入れた円満な造形をしました。

今回、サイズを大きくして、かたちの細部や全体色調や差し色の表現を変えました。風様は上部の風袋を白漆で差し色したふんわり感を、雷様は右上から斜め左下に付けた稲妻を黄漆で差し色した躍動感を、フォーカルポイントにしています。

古来、東方の海にあるという蓬莱山を目指してたくさんの探検が行われました。

見つからなかったのは、海にたたずむ島というよりも、海にただよう舟の上に山があったからかな、と思いました。

それで、青漆で仕上げた乾漆で舟の外形をつくり、舟の内底にきらびやかな螺鈿で蓬莱山の永遠の生命を象徴化しました。また、共作者の四代田辺竹雲齋さんは、蓬莱山の豊稔をモチーフに、多くの実りで頭がたれた稲穂を見立てて、束編みという竹を編み込む技法で、舟上からふっくらと弧を描いて伸び、舳先や艫で水面へたれるように編み重ねて、蓬莱山の外形をつくりました。



蓬莱の舟（ほうらいのふね）

2024

76.5 × 17 × 44cm

乾漆に色漆、貝、京都オパール、金

竹：四代田辺竹雲齋

笹井史恵 SASAI Fumie

1973 大阪府に生まれる
1998 京都市立芸術大学大学院美術研究科漆工専攻修了
現在 京都市立芸術大学 教授

近年の主な展覧会

2019 個展「空のさかな」高島屋／東京日本橋・大阪・京都
2021 「悉皆一風の時代の継承者たち」高島屋／東京日本橋・大阪・京都・横浜・新宿
2023 「第35回京都美術文化賞受賞者記念展」京都文化博物館
「融合する工芸」セイコーハウス銀座ホール／東京
「漆風怒涛—現在を駆け抜ける髹漆表現」石川県輪島漆芸美術館

受賞

2014 京都市芸術新人賞
2015 第25回タカシマヤ美術賞
第33回京都府文化賞奨励賞
2022 第35回京都美術文化賞

主な収蔵先

国立工芸館
茨城県近代美術館
豊田市美術館
高島屋史料館
中信美術館
あびこ山大聖観音寺
ミネアポリス美術館
ボストン美術館
ギメ東洋美術館
フィラデルフィア美術館
ヴィクトリア&アルバート美術館

笹井史恵 漆芸展

風様ふわり、忽ちに雷様

東京展 = 2024年9月11日(水)→30日(月)
高島屋日本橋店 本館6階 美術画廊X
東京都中央区日本橋2-4-1
Tel: (03) 3211-4111(代)

大阪展 = 2024年10月16日(水)→28日(月)
高島屋大阪店 6階 ギャラリー NEXT
大阪市中央区難波5-1-5
Tel: (06) 6631-1101(代)

京都展 = 2024年11月13日(水)→18日(月)
高島屋京都店 6階 美術画廊
京都市下京区四条通河原町西入真町52
Tel: (075) 221-8811(代)

 Takashimaya

〔笹井史恵 漆芸展「風様ふわり、忽ちに雷様」 リーフレット〕
撮影 = 今村裕司 発行 = 2024年9月11日
編集・発行 = 株式会社高島屋 ©2024 製作 = 求龍堂(深谷路子、近藤正之)

このたび高島屋では、東京日本橋・大阪・京都の各店におきまして、笹井史恵漆芸展「風様ふわり、忽ちに雷様」を開催いたします。

笹井史恵は乾漆技法による作品を制作し、国内外で高い評価を集めている作家です。花、果実、子供、いきものなどをモチーフに、朱塗りによる柔らかかで艶やかな質感により生命の息吹を感じさせる世界を表現してきました。膨らみや瑞々しさなど漆ならではの触感を通じた感覚や、空間を浮遊するような開放感など、作品からは笹井の生命への愛情あふれる眼差しとともに柔らかなイメージが感じられます。

今展では、「風様ふわり、忽ちに雷様」と題して、柔軟な着想をもとに近年の代表作等に多彩な色漆と淡い差し色によって重層的な魅力を纏わせ、新たな物語を立ち上がらせる事に成功しています。また新しい工芸を生み出すことを目指し、挑戦され続けている異素材の工芸作家とのコラボレーション作品など、新作を一堂に発表いたします。

作家自身がつくる自然、生命への賛歌の物語を何卒ご堪能ください。

高島屋美術部



たんぼぼは、黄色い花を咲かせた後、花びらとがくとその付け根の総苞片が閉じます。花びらが集まって閉じたときの先っぽが緑色の帽子のようにして、総苞片で包み込んだふくらみをつくります。時間がたつと、総苞片ふくらみの中の花びらとがくが綿毛に変わり、その後、総苞片ふくらみが開いて落ちます。このひとときの間だけ、綿毛の玉の上に、元花びらの緑の帽子がちょこんと乗っかっていて、可愛い姿が現れます。
この着帽の綿毛玉のたんぼぼをモチーフにしてかたちをつくり、緑の帽子を淡い緑漆で、ふわふわした感じの綿毛玉を淡い桃漆で表現しました。

たんぼぼ
2024
21×20×65cm
乾漆に色漆